

当講座のとくみが報道されました！

希少難治性心筋症の病態を、ヒト iPS 細胞由来分化心筋細胞により解明した当科の取り組みが報道されました！

2021 年 5 月 22 日

読売新聞 夕刊 8 面

心筋症の原因遺伝子

阪大など iPS で確認

心臓の筋力が弱まる難病「拡張型心筋症」は、特定の遺伝子の変異で発症するとの研究成果を、大阪大の肥後修一朗特任准教授（循環器内科学）らのチームがまとめた。患者の iPS 細胞（人工多能性幹細胞）から作った心筋に正常な遺伝子を入れたところ、収縮力が倍増したという。発症原因の一つと考えられ、論文が英科学誌に掲載された。

拡張型心筋症は心臓が過度に膨らんでポンプ機能が低下する病気で、遺伝で発症するケースがある一方、原因不明の患者も多い。主に薬で治療するが、重症だと心臓移植が必要になる。

チームは、拡張型心筋症で重い心不全となった患者から採取した心筋や遺伝子を解析。細胞同士をつなぎ、心臓の収縮力を伝えるたんぱく質がなく、このたんぱく質を作る遺伝子に変異があることがわかった。

さらに、患者の細胞から作った iPS 細胞を心筋に変化させ、正常な遺伝子を入れると、収縮力が約2倍に強化されたという。

拡張型心筋症と遺伝子の関連に詳しい黒柳秀人・琉球大教授（分子生物学）の話「この病気に関わる遺伝子変異は約40種類が知られているが、新たな原因遺伝子の発見と言える。すぐに治療に生かせるわけではないが、この遺伝子を含め、患者の遺伝子変異を丁寧に調べていけば、病態の解明にも役立つのではないか」

読売新聞オンライン

心筋症の原因遺伝子をiPSで確認…阪大など

<https://www.yomiuri.co.jp/local/kansai/news/20210522-OY01T50024/>

2021 年 5 月 27 日

朝日新聞デジタル

iPS 細胞駆使して難病の原因解明 拡張型心筋症

<https://digital.asahi.com/articles/ASP5W4TRZP5SPLBJ001.html>